

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課気付
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969



水素をテーマとした「エコセミナー」の開催報告について

千葉県環境生活部循環型社会推進課 技師 高橋 良

日頃、環境パートナーシップちばの皆様には、千葉県の環境活動の推進にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今、日本では水素社会の実現に向け、産学官一体となって水素の利活用を進めているところです。本県でも、地球温暖化防止対策などの観点から、水素をテーマとした「エコセミナー」を2月10日(水)に開催しました。

エコセミナーは、講演や試乗を通して、水素のことを理解し身近に感じてもらうことを目的とし、前半は水素に関する「講演」、後半は水素を燃料として走る燃料電池自動車(以下、「FCV」という。)の「試運転や同乗」を行いました。

講演は次の3名の方をお願いしました。水素関連で著名な元九州大学大学院客員教授である岡野様、トヨタ自動車株式会社水素・FC推進グループ担当部長である金川様、房総ガス協議会から東京ガス株式会社千葉支社副支社長・地域環境コーディネーターである福留様です。

岡野様には水素全般について、水素が地球温暖化とエネルギー問題を解決できる可能性のある将来のエネルギーとして期待されていることや、再生可能エネルギーで発電した電力の貯蔵媒体として利用できること、天然ガスなどの可燃性ガスと同様に、漏えい防止・換気・火気厳禁を徹底することで安全に利用できることなどを、分かりやすくお話いただきました。

金川様にはFCVについて、走行時のCO₂排出がゼロであること、災害時にFCVから電力を供給することができることなど、水素を燃料とすることのメリットや走る仕組みなどをご説明いただきました。

福留様には家庭に供給されているガスから水素を作るエネファームについて、電気とお湯を自宅で作ることによってエネルギーを無駄なく利用できること、効率の良い運



転で光熱費を大きく削減できることなど、仕組みや導入する利点をご講演いただきました。

最後に、私から千葉県の水素関連の取組を簡単にご紹介させていただきました。

講習終了後のアンケートでは、「水素社会は夢の未来かと思っていたが、大分現実的に感じた。」「いずれも意義ある講演、勉強になった。」という感想をいただき、参加者の皆様に、満足いただけたと感じております。

次に、FCVの試運転や同乗については、千葉トヨタ株式会社様及び千葉トヨタ自動車株式会社様にご協力いただき、FCV2台を使って試運転を行うことができました。また、県で所有するFCV1台で車両の説明や同乗体験を行いました。

今回、応募多数により残念ながら抽選になりましたが、乗っていただいた方々に感想をお聞きすると「とても静かで加速も良い。驚いた。」といった声をたくさんいただきました。

今後も、千葉県では水素社会の実現に向け、普及啓発活動に努めてまいります。燃料電池自動車の環境イベントや防災訓練への出展は、県民の皆様へ、水素を理解していただく数少ない機会ですので、来年度も引き続き、できるだけ多くのイベントに出展したいと考えております。

最後に、講師を快くお受けくださった岡野様、金川様、福留様、燃料電池自動車MIRAIを提供してくださったトヨタグループの皆様、桑波田代表をはじめエコセミナーの事業全般を請け負っていただいた「環境パートナーシップちば」の皆様、そしてご参加いただいた県民の皆様へ感謝申し上げます。

水素社会の実現に向け、今後も千葉県では様々な取組を行ってまいりますので、何卒よろしくお願いたします。



ELCoの会より「ESD 環境教育プログラム実証事業」3年間報告

環境省（文部科学省協力）から公募のあった小中学生を対象にした「ESD 環境教育プログラム」（以下プログラムと略）実証事業をELCoの会が平成25年度から3年間受託し、取り組んできたので、ご報告させていただきます。

この事業は、その年度に提案された20程度のプログラムの中から千葉県において実施すべきモデル的なプログラムと学校を選定し授業実施後、地域性を踏まえた小中学生向けのESDの視点を取り入れた地域プログラムを作成し、「ESDガイドブック」として報告するという内容でした。

平成25年度は、「ESD 環境教育プログラムとは何か」ということで千葉県各地の環境学習コーディネーターとして活動している会員が20プログラムを読み解き、エコメッセちば会場で「ELCoの会が推薦するESDプログラム」の展示とセミナーを実施し、啓発に務めることから始めました。その年の実証校は、千葉市立打瀬中学校で「公園・発見・探検・ほっとけん・・・だれが？」実証に取り組み、「だより95号」で市野代表が「ESDの視点を取り入れた授業を実施」というご報告をしています。

2年目の平成26年度は、秋に事業公募があるという時間的には厳しい中、長南町立長南小学校で「ほんとうにきれい？ 長南の水から考えるわたしたちの未来」という授業を実施、浦安市立入船南小学校では、「環境とわたしたちのつながり」テーマの総合学習の中で「電気に頼りすぎた生活を見直そう」というプログラムの実証を実施することができました。

平成27年度は、夏休み時期に浦安市立入船小学校で校長先生もご出席の中「運営会議」を開き、地域プログラム化にあたってはモデルプログラムを地域の特性に応じて用いる際には、6つの要素と7つの力・態度をふまえること、児童の意識、態度、行動の変容を促すことを目指すこと、学びを学校から家庭、地域へと波及するきっかけを作ること、児童の変容を可視化することなどが説明され、やっと落ち着いたスタートとなりました。

千葉県地域版ESDプログラム「環境とわたしたちのつながり～環境人（エコんちゅ）になろう！～」では、私たち一人ひとりの暮らしがさまざまな環境問題に影響していることに気づくゲームを行った後、水・廃棄物・エネルギーをテーマにして体験を通じてそれぞれが互いに関わりあっていることを学ぶ。「環境」について初めて学ぶ子ども

たちが、知識ではなく、対話や体験を通じてテーマを理解し、自分たちができることを考え成果を発表としています。モデルプログラムは、「太陽エネルギーって何だろう？～太陽のめぐみが暮らしを支える・かえる～」を実証しています。地域化するに当たって、浦安市環境保全課の支援、浦安市教育政策課の支援（教育委員会広報誌での紹介）、保護者の支援と地域の支援があったことが大きな力になったことも成果につながりました。

千葉での二つ目として、千葉市立平山小学校1年生生活科授業「秋のおくりもので遊ぼう」テーマで、「力を合わせて絵本作家になろう」モデルプログラムの実証にチャレンジしました。授業後、完成した絵本が児童にとって大きな成果となりました。

以上のように、ELCoの会が実証事業としての3年間、持続可能な地域づくりを担う人材育成に関わる中で、学校と地域をつなぐコーディネーターとしての役割を実践することにより、今後もさらに「ESDモデルプログラム」と「ESDガイドブック」を持って地域に入ってコーディネートしていくことになると考えています。



入船小学校 発表会案内



発表会の様子

(文責 横山清美)

平成28年度（第20回）定時総会開催のご案内

桜の開花が始まりました。気温変動が大きい中ですが、関東の開花は平年並と予想されています。皆さまのところはいかがでしょう？

ところで、当会もおかげさまで、27年度をまとめ28年度への歩みを進める時期となりました。そこで、以下の日程で平成28年度（第20回）定時総会を開催します。是非多くの会員の方のご参加をお待ちしています。

平成27年度の主な活動としては、「エコメッセちば実行委員会事務局」、「伊旛沼流域環境フェア、ナガエツルノゲイトウに関する連携活動」「エコセミナー実施業務委託（千葉県）」など展開してきました。

当会は、環境保全を推進するために、市民・企業・行政等と協働（パートナーシップ）で取り組むことを主な目的として平成9年6月に設立されました。設立後19年目の今年は、当会の今後の方向などについて、法人格取得について議題として上程いたしました。

是非多くの会員の方のご参加をお願いいたします。

第Ⅰ部は総会を開催し、総会後の第Ⅱ部は、交流会を行います。

※楽しくなる交流会を企画中です。お楽しみに！

記

日時：平成28年5月21日(土)

場所：千葉市生涯学習センター 研修室1（3階）
千葉市中央区弁天3丁目7番7号

http://www.chiba-gakushu.jp/know/know_04.html

アクセス：JR千葉駅東口または北口から徒歩8分
千葉モノレール「千葉公園駅」から徒歩5分

第Ⅰ部 総会 13:30~14:30

☆平成27年度事業・会計・会計監査報告

☆平成28年度役員改選・新役員紹介

☆平成28年度事業計画(案)・予算(案)

☆法人格取得設立準備委員会設置について

第Ⅱ部 交流会 14:50~16:00

お問い合わせ：090-8116-4633（環パちば携帯）

※ 会員の方には返信ハガキを同封していますので、出欠に関わらずご返信ください。

（文責 桑波田和子）

環境パートナーシップちば 特定非営利活動法人格の取得検討について

千葉県は、平成3年「千葉県環境学習基本方針」を制定し、指導者づくりとして平成5年「エコマインド養成講座」がスタートしました。その卒業生の市民が中心となり「環境シンポジウム千葉会議」「エコメッセinちば」「環境パートナーシップちば」が誕生しました。

当会は、「環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連携のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的」として、平成9年6月に設立しました。

当時は県内の環境活動団体約60団体が緩やかなネットワークを作り、活動を展開しました。

現在、県内には環境課題に取り組む市民活動団体が多く誕生し、さらに、行政、企業などと協働の取り組みの実現など、団体として成長してきています。

そこで、当会もこれまでの活動をふりかえり、今後の活動の主軸を再検討し、市民活動団体としての社会的責任も踏まえ、特定非営利活動法人格

の取得を検討したいと思い、会員の皆様へアンケートや、ふりかえり会などの会合を開催してきています。

アンケートの回答からは、今後の取り組みとして、「環境問題普及活動」「協働・中間支援団体」など挙げられています。また約7割が、法人格取得への同意がありました。

法人格についての検討は、以下の計画で進めてきています。平成28年度総会で議案として提案いたします。皆さまのご意見等、よろしく願いいたします。

・・・法人格取得の検討会・・・

1回：平成28年1月31日 13:00~15:00

2回：平成28年2月24日 18:00~20:00

3回：平成28年3月23日 18:00~20:00

4回：平成28年4月・・・未定

5回：平成28年5月21日総会 13:30~16:00

※場所は4回以外千葉市生涯学習センター

（環境パートナーシップちば運営委員会）

「ネオニコチノイド」をご存知ですか

2月15日（月）に千葉市市民活動センターでエコサロンを開催しました。

この会は当会が主催し、環境問題等に関し各方面から講師を招いて話題提供と情報交換を兼ね勉強会を継続し開催しております。今回は68回目となり、当会の会員でもある小倉久子氏が講師になって「ネオニコチノイド」という農薬成分についてお話をされました。

いきなりカタカナで難しい話かと思っていたら、お話の構成は末尾に掲載した書籍を教材にして、ミツバチの大量死被害問題を切り口に分かりやすくレジメにしたものでこれを見ながら話に引き込まれていきました。

話の構成は①1990年代に欧米でミツバチの突然大量死が発生し、日本でも被害が拡大していること、この原因究明が行われ欧米では2012年にニコチノイド系農薬が原因と化学的に決着がついたが日本では引き続き使用が認められていること。②ネオニコチノイド系農薬の特徴は神経毒性・浸透性・残効性・水溶性等があり、開発出現された経緯とこれらの毒性数値が示されていること。③ネオニコチノイドが、農地や森林で散布されるだけでなく、住宅建材やシロアリ駆除、ペットのノミとり、家庭用殺虫剤、ガーデニング等広い範囲に使用されていること。④だから、ネ

オニコチノイドはミツバチだけではなく人間にも影響があり、いろいろな研究結果から証明されつつあると。

最後に、市販されている商品を数種類持参されて、そこに表示されている成分の見方について説明がありましたが、更に実物を手に取って確認することで農薬問題が市民にとって一層身近な問題であることを実感できました。



<参考文献>

- 『増補 新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かす』
水野玲子 著 七つ森書館 発行
『新農薬ネオニコチノイドが脅かすミツバチ・生態系・人間』 NPO 法人ダイオキシシン・環境ホルモン対策国民会議 発行

(文責 萩原耕作)

フードロス 食環境を考える学習プログラム ～自分が食品の気持ちになるゲーム～

「もったいない鬼ごっこ」の指導研修会があるから参加しないかと声掛けがあり、2月20日フードロス・チャレンジ・プロジェクトと東京都環境局共催の研修会に出かけてきました。ハウス食品グループ(株)、NPO 法人ハンガー・フリー・ワールド、(株)博報堂が開発した、低学年向けの食育プログラムです。

食べものは多くの人の手を経たうえで生活者に届くが、その過程で約1/3が廃棄される。しかし、そうして生じるフードロスの原因には私たちの意識が関わっている、ということがこのゲームのテーマです。日本においても年間約500～800万トンが食べられるにもかかわらず廃棄されているとのことでした。

ゲームに参加するメンバーは食品の絵柄がついたカードを渡されます。食材として形が悪い、加工品の段階でパッケージに難がある、流通の段階で少し古くなるなど少しの不足でも「商品価値が低い」ということで、鬼ごっこゲームの中でケンケンでしか逃げられないというハンディを負わさ

れます。大人になっても鬼になりたくないから、案外本気で逃げたくなり、些細なことによるハンディが疎ましく思われます。

日常的に自分が選択者として振る舞っているときには思いもつかないことですが、本来の食品としての価値ではなく、見栄えや形式的な価値、消費者本位の気分的な判断がフードロスの原因であることを疑似的に体感できます。

その後、グループごとにフードロスについて話し合います。写真が、鬼ごっこの鬼が頭につけるヘアバンドです。この絵柄は「悪」の象徴ではなく、フードロスで生じるモヤモヤ感を表しているとのこと、このデザインも含めよく考えられたプログラムでした。ゲームの道具の貸し出しもあり、環境学習で効果的な教材だと思いました。

(文責 中村明子)



第5回印旛沼流域圏交流会 開催報告

交流会事務局（土木研究所） 大寄真弓

去る2月28日（日）、千葉工業大学津田沼キャンパス6号館において、第5回印旛沼流域圏交流会を開催しました。「印旛沼流域圏交流会」は、印旛沼や流域に関心を持つ人たちのゆるやかな集まりです。日常的にはメーリングリスト、ブログ、facebookで情報交換をしていますが、この日はみんなで集まって交流をしよう、ということで、話題提供と懇親会という2部構成の交流会を企画しました。当日は話題提供に86名、懇親会には60名もの方にご参加いただき大盛況でした。今回はたくさんの大学生にご参加いただけたことがうれしく、また手賀沼、霞ヶ浦、琵琶湖など、印旛沼以外で活動をされている方のご参加もあったことから、印旛沼にとどまらない色々な交流を図ることができました。

話題提供のテーマとして、現在印旛沼で大きな問題となっている特定外来植物ナガエツルノゲイトウの駆除に関するもの、地下水の硝酸性窒素の現状など、ホットな題材を取り上げたので、「大変参考になった」「今後の活動の参考になりそうだ」

などの評価をいただきました。また学生の参加者からは、「様々な視点から印旛沼を見る機会になり、とても参考になった」「目の前の問題に対して、多くの視点を持つことができるようにしていきたい」など、前向きな感想を持っていただくことができました。私たちの活動は、印旛沼や流域に関心を持つ人たちをつなげるだけではなく、若い、未来の力になっていただく方たちに、新たな視点を持っていただくお手伝いをするつもりです。今後も積極的な情報発信、交流をしていきたいと思っています。



新宿リサイクル活動センター

「生ごみを減らす工夫～みんなでチャレンジ」に参加して

NPO法人 ビオスの会 津本純子

初めに、新宿区の資源・ゴミ事情についてのお話がありました。資源では、容器包装プラスチックの収集をしているところが千葉市と違っていました。一人1日当たりのごみ量は、平成25年度で633g、千葉市の775gよりかなり少ないです。一方資源化率は、新宿区は21.4%、千葉市は32.2%と千葉市の方が高いです。有料ゴミ袋だからでしょうか。生ごみの減量や資源物の分別など区民のチャレンジ目標が示されていました。そしてこの新宿リサイクル活動センターという施設が、区民が気軽に利用できるリサイクルの拠点になっているようで、リサイクル講座、リサイクルショップ、おもちゃ病院、日用品修理、洋服ポスト、フリマ、廃食油回収、小型電子機器回収などやっています。建物のショーウィンドウには、リサイクル講座の作品が飾られていました。家の近くにこのような施設があったら、しょっちゅう通ってしまいそう。

さて、本題の生ごみ削減取組事例ですが、最初に発表された「ベランダでできる生ごみ堆肥化」は、段ボールや発泡スチロールの容器を工夫して

使い、好気性発酵させるもの。できた堆肥で野菜満載のベランダの様子でした。発表された方は、この施設でリサイクル講座をいろいろされているそうです。次にビオスの会の活動と主にバクテリアハウス（BH-5）の紹介をしました。その次にこのセンターの職員でもある中村さんの、センターで行った通気式生ごみ保管排出容器「生ごみカラット」のモニター実験の報告でしたが、減量率（70～90%）の高さにびっくりです。千葉市でも補助の対象にしたらいいのと思いました。最後に中村さんの家でやっている生ごみを減らす工夫の紹介。カラットの経験から野菜系生ものは乾燥させ、それ以外は植木鉢を工夫して堆肥化している様子。そのあとは熱心な参加者からたくさんの質問を受けました。ぬくもりのある施設で有意義な時間を過ごしました。



グリーン・ブルーツーリズム

NPO 法人千葉自然学校 遠藤 陽子

グリーン・ツーリズムとは、「自然豊かな農山漁村で、その自然や文化、地域の人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」のことです。3方海に囲まれた千葉県では、これに海を加えて「グリーン・ブルーツーリズム」と呼んでいます。

NPO 法人千葉自然学校では、グリーン・ブルーツーリズムを通じて子どもたちにはツーリズムの提供、ツーリズム受け入れ地域にとっては地域の活性化につながるように県内各地で活動を展開しています。

都市部の子どもやシニアと交流を深める南房総市平久里地域での取り組みを紹介します。

道の駅富楽里とみやまから東に15分程度車を走らせた山間部に位置し、平群という旧地名でもわかるように歴史も古く、里山景観が優れた地域ですが、高齢、過疎で山も農地も荒れ、祭りの開催も大変になってきています。千葉自然学校では、平成16年から古民家「ろくすけ」を借り地域の方々や平成24年度開講された千葉シニア自然大学の在校生、OBで組織された「ろくすけ」の会の皆さんの協力をえて整備し、現在は子どもたちの週末ホームステイをはじめ都市農村交流拠点として活用しています。

平成26年度にグリーン・ツーリズムで地域の

活性化を計ろうと地区住民と「ろくすけ」の会・行政等で平群ツーリズム協議会を立ち上げ、「ろくすけ」を拠点として、地域の方たちのガイドと指導でハイキングと郷土料理塾の開催を始めました。

「昔は和紙をつくっていた」とか「和泉式部の合わせ鏡」など通常のハイキングでは聞けない話を聞きながらのハイキング、郷土料理塾では、摘んできた野草や、もいできた夏みかんなど予定にないメニューも入ってにぎやかな技の交流が進みます。

悩みの種は、バス代の高騰と地域内交通の不便さ。ツーリズムで都市・地域住民を元気にするにはまだまだ課題がたくさんあります。



↑ 平群(へぐり)郷土料理塾
← 平群を歩く

おとなと子どもが育ち合う～こどもエコクラブ～

こどもエコクラブ全国事務局 林 弘幸

こどもエコクラブは1995年にスタートした子どもの環境活動を応援する事業です。環境をキーワードとして子ども同士が仲間をつくり、サポートする大人と一緒に活動します。3歳の幼児～高校生なら誰でもメンバーとして登録できます。環境省事業から2011年に公益財団法人日本環境協会の自主事業となり、2016年2月末現在、全国47の都道府県で約2100クラブ、12万人を超えました。そのうち千葉県は80クラブ、約9,000人も子どもたちが登録し、元気に活動しています。

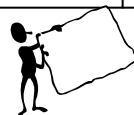
クラブの形は様々で、幼稚園・保育園、学校などで登録する場合もあれば、家族、近所の友だち、ボーイスカウト・ガールスカウトで登録していることもあります。家族の場合は保護者の方、幼稚園は先生など、子どもに身近な大人がクラブのサポーターとなってくださっています。

今、エコといえば何を連想するでしょうか。節

電やリサイクルを思い浮かべるのが一般的かもしれませんが、自然観察や生き物のつながりを感じる体験を通して、環境保全の重要性を実感することも重要です。虫が怖くて触ることができない子どもが増えるなど、幼児期の自然体験の不足が過去にも増して叫ばれている昨今、子どもが大人と一緒に活動することもエコクラブはとても意味があります。子どもが自然体験で得た発見・喜びはそのまま保護者の方にも伝わっていき、子どもと大人とが互いに育ちあいながら地域の環境保全につなげていけるからです。

そこで、全国事務局では昨年度より特に幼稚園・保育園の登録を促進しております。環境パートナーシップちばの会員皆様のお力を借り、千葉県内の子どもたちの環境力向上をさらに図ってまいりたいと考えております。ぜひよろしくお願いたします。

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 32 — おききました！ この人・この団体



小河原 孝生氏

(株)生態計画研究所 代表取締役 所長 NPO 法人生態教育センター 理事長

聞き手：桑波田和子

千葉県は、平成5年に環境学習指導者養成講座として「エコマインド養成講座」を開始しました。この講座の講師として、小河原孝生氏に学ばれた方も多いと思います。ちなみに平成12年に受講した私は、小河原氏に講座を受けた最後の方になるようです。

また、千葉県が平成6年発行した「環境学習ガイドブック」の監修も担当され、エコマインド養成講座の学習プログラムとして、活用されてきています。

その小河原氏が主催しました「サンフランシスコ生態旅遊」（平成28年3月8日～14日）に、参加しました。この活動の報告と併せて小河原氏のご紹介をいたします。

小河原氏は、1950年京都市生まれ。73年大阪府立大学農学部卒、大阪市環境保健局勤務。74年大阪自然教室、76年(社)大阪自然環境保全協会の設立に参画。78年東京港野鳥公園の初代レンジャーとして(財)日本野鳥の会勤務。計画担当部長を経て、91年(株)生態計画研究所設立、02年NPO 法人生態教育センター設立。生態環境の保全と回復、環境教育プログラムと施設の計画、自然と共生する地域振興などにつながる人材育成に取り組んでいる(つながりひろがれ環境学習 ところのエコロジー・ワークショップ 2より)。

現在は、都立葛西臨海公園野鳥園、葛飾区立かわせみの里等都内5カ所にスタッフを派遣し、年間10万人にプログラムを提供。国営木曾三川公園自然発見館、堺市立自然ふれあいの森、習志野市立谷津干潟自然観察センター等全国5カ所の指定管理を引き受け、年間50万人にプログラムを提供されています。

また、昨年山梨県早川町で開催され、当会のメンバーなど参加体験した(だより106号掲載)「美里市民農園体験セミナー」の主催者です。地球規模で環境や生物多様性の危機が現実化するとともに、足もとでは身近な生きものたちが絶滅の危機を迎え、早川町を始めとする中山間地域では、人の暮らしそのものが森と野生生物に飲み込まれようとしている今こそ、野生生物と共生する「生態地域づくり」の研究と、地域での推進が必要と、ヘルシー美里の運営管理や環境プログラム等、都

心と早川町を結ぶ活動等を展開されています。

持続可能な社会形成を目指す環境教育に長年かわられてきた小河原氏は、「思考と行動の変革」に向け、「自然体験活動は応えられるのか？」と課題をお持ちです。体験学習のプロセスと学びの構造の、「導入」「展開」「ふりかえり」に、科学的体系化の重要性を！と熱く話されます。また、地学的環境、生物的環境、文化的環境も踏まえて学ぶなかで、思考から行動するプロセスが重要とも話されます。



ところで、今回のサンフランシスコの生態旅遊ですが、小河原氏含め8人で行動しました。旅程は、①ミュア・ウッズ国定公園で、スクールプログラム体験、②ネイチャー・ブリッジ/ゴールデンゲート校で2泊3日のプログラム体験、③ヨセミテ国立公園視察、④サンフランシスコ・ベイ国立野生生物保護区・環境教育センター/湿原復元エリア視察などでした。お天気は、カリフォルニアの青い空とはいかず、傘と雨合羽が外せないでしたが、雨の恩恵か？ミュア・ウッズでは、バナナスラッグ(ナメクジ)、カワウソ等(なかなか見れない)見ることができました。

ネイチャー・ブリッジでは、会田民穂(北海道出身)講師のもと、小学5年生を対象としたプログラムを体験しました。このブリッジでは人種差別・貧困、ジェンダーなどの課題と解決に向けた取り組み、行動する人づくり、政治への参画など踏み込んだプログラム体験も用意されています。

今回参加して、小河原氏が目指す環境教育を日本でも実現へ向けて着実に行動されていることを実感しました。



運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

2月運営委員会

日時 2月24日(水) 16:00~18:20
場所 千葉市生涯学習センター

【報告】

- ・千葉市地域環境保全自主活動事業(1/31)
- ・法人格について考える会(1/31)
- ・エコセミナー(2/10)
- ・2月エコサロン(2/15)
- ・関東ブロック中間支援組織交流会参加(1/18)
- ・東京都体験型講座参加(2/20)

【協議】

- ・千葉市地域環境保全自主活動事業
- ・エコセミナー ・環境講座 ・だより108号
- ・法人格についての検討
- ・2016年度活動方針 ・総会準備 ・その他

3月運営委員会

日時 3月23日(水) 18:00~19:30
場所 千葉市生涯学習センター

【報告】

- ・千葉市地域環境保全自主活動事業実施報告書提出
- ・エコセミナー実施報告書提出
- ・環境講座応募(3/7)及びプレゼン(3/14)

【協議】

- ・だより「108号」
- ・環境講座について
- ・法人格についての検討(3/23)
- ・平成27年度事業報告及び平成28年度の活動方針
- ・総会の交流会の検討
- ・その他

お知らせ

第13回里山シンポジウム in 南房総

日時: 5月15日(日) 10時~17時
会場: 南房総市立嶺南中学校和田校舎
(南房総市和田町海発1602)
テーマ: 南房総お国自慢 ~里山里海の恵みと食~
基調講演: 地域の魅力 ハッケン・タンケン・
ホットケン
「風の人」と「土の人」の出会いのデザイン
講師: 延藤 安弘氏
(NPO 法人まちの縁側育み隊代表理事)
内容: 里山シンポジウム分科会
基調講演
南房総お国自慢大会
主催: 里山シンポジウム実行委員会
里山シンポジウム南房総実行委員会

第5回 印旛沼・流域再生大賞の募集開始

印旛沼とその流域で、「恵みの沼をふたたび」取り戻す活動に努力している個人や団体を表彰します。

【応募期間】 2016年4月28日(金)
~7月4日(月)

【応募資格】 年齢、性別、国籍、団体・個人を問わず、どなたでもご応募いただけます。

【応募方法】 応募用紙に必要事項を記入し事務局にご提出ください。

【応募・お問い合わせ先】
印旛沼流域水循環健全化会議
(千葉県河川環境課)

TEL: 043-223-3155

FAX: 043-221-1950

【詳細】 いんばぬま情報広場
<http://inba-numa.com/>

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先: (一財) 千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL: 043-246-2180 FAX 043-246-6969
Eメール: info@kanpachiba.com
会費納入先: 環境パートナーシップちば
郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		